

## ヤマザクラ (1) 吉野山にて

藤原 道夫

これまでに様々な桜の花を見てきた。白に紅、一重に八重、早咲きに遅咲き、一本に並木などなど。最も美しい桜は？と問われると、答えに窮する。桜の美しさは、花そのものにあるのは当然として、背景（神社仏閣、城郭、周りの自然など）にも左右される。様々な要因を考えて、やはりヤマザクラがいいなと思う。ヤマザクラの花は概ね白っぽく、少し伸びた茶色の新芽と相まって、全体としてピンクがかかってやっと見える。そこが奥床しい。

ヤマザクラについて書こうとすると、まずは吉野山が関わってくる。

初めて訪ねたのはもう 50 年前になろうか、滞在していた大阪から午後に出かけた。日が傾く頃に中千本辺りにたどり着き、すすめられるままに茶屋に入り、緋毛氈に覆われた床几を前に団子にお茶を頂く。ふと、風が起こった。日差しを受けた白い花びら一枚一枚が生き物のように細かく動き、一群となって木々をかすめるように谷を下って行った。上からも降ってきて茶碗の中に 2, 3 片浮かぶ。団子を食してそっとお茶を飲む。花びらは消えていた。

その後も何回か吉野山に出かけたが、満開の桜にぴたりと出会うのが難しかった。一目千本を眺め渡せる旅館を予約し、家内と訪ねた時は全山葉桜になっていた。早すぎた時もある。

ある年は丁度満開に当たった。吉野駅前からバスに乗って如意輪寺前で降り、ぶらぶら歩く。斜め上から射す陽の光を受けて花々が匂いたつよう、そして体がすっぽり花に包まれているような感覚にとりつかれた。平日で辺りに人が少なく、全山の花を独占しているような気分も味わった。

別の折、金峯山寺に参詣した。前庭の 4 隅に植えられている立派なヤマザクラは修験道に関係するのだろうか。本尊の蔵王権現は美的感覚が欠落した造りだ。内陣の脇で僧が「此处は霊場です、観光地ではありません・・・」などと説法している。居合わせた人たちは見物に気をとれていて、説法など耳に入らない様子。

吉野山には、修験者をはじめ様々な人たちの思いが沁み込んでいる。それらを自分なりに受け止めて、今ある桜の風景を満喫しよう。